

研究員の眼

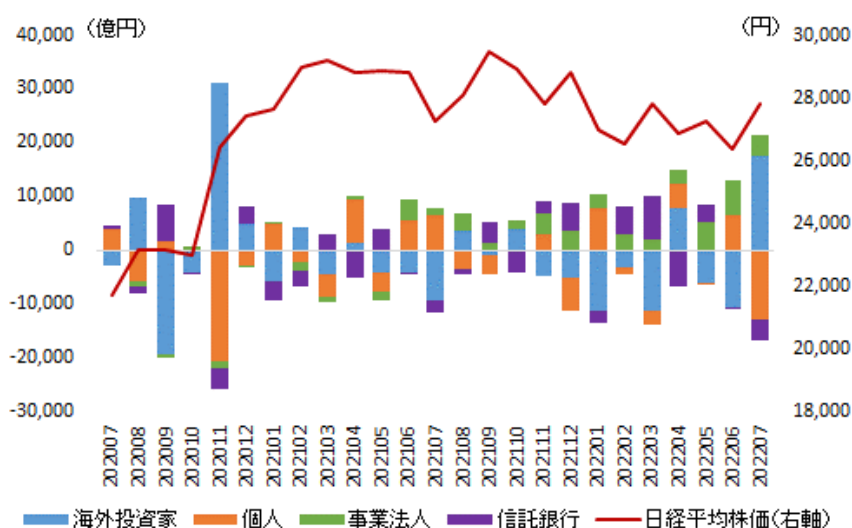
海外投資家が先物を中心に買い越し

～2022年7月投資部門別売買動向～

金融研究部 研究員 森下 千鶴
(03)3512-1855 mchizuru@nli-research.co.jp

2022年7月は、月初に米国を中心に世界景気の後退懸念から日経平均株価が2万6,000円割れまで下げたものの、その後は金利低下による米株高を好感して大きく上昇した。ただ、下旬は円安の進行が一服したことなどから上値を抑えられ、日経平均株価2万8,000円には届かず終えた。主な投資部門別で見ると、海外投資家と事業法人が買い越し一方で、個人と投資信託が売り越した。

図表1 主な投資部門別売買動向と日経平均株価の推移

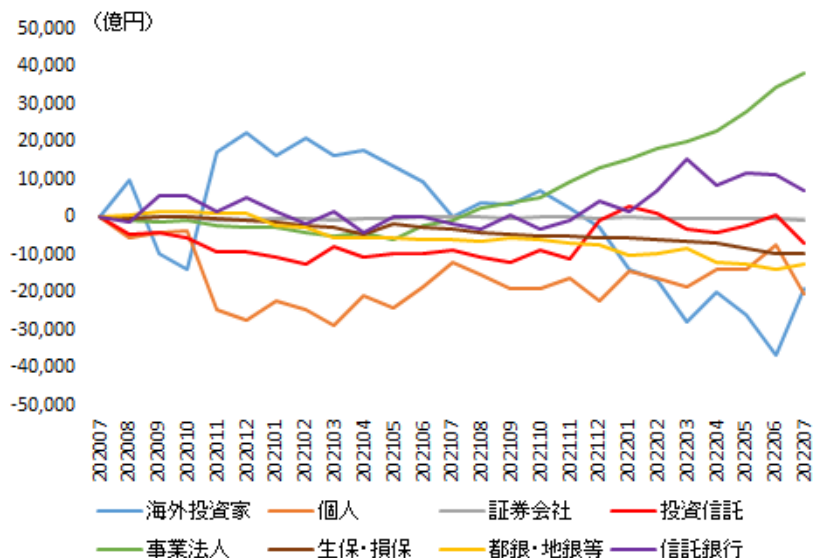


単位: 億円 (億円未満切り捨て)		海外投資家	個人	証券会社	投資信託	事業法人	生保・損保	都銀・地銀等	信託銀行	日経平均株価 (円)
月次	202205	-6,049	-17	-230	1,992	5,332	-1,514	-875	3,086	27,279.80
	202206	-10,407	6,690	4	2,532	6,371	-967	-1,105	-422	26,393.04
	202207	17,388	-12,830	-261	-7,056	4,002	-19	1,359	-3,881	27,801.64
週次	7/4-7/8	11,905	-4,852	-51	-4,758	1,309	139	-903	-3,807	26,517.19
	7/11-7/15	-1,870	-80	-11	-633	1,368	-193	1,039	32	26,788.47
	7/19-7/22	8,856	-7,634	-205	-1,817	486	-140	1,302	-68	27,914.66
	7/25-7/29	-1,501	-262	8	153	836	175	-79	-38	27,801.64

(注) 現物は東証・名証の二市場、先物は日経 225 先物、日経 225mini、TOPIX 先物、ミニ TOPIX 先物、JPX 日経 400 先物の合計

(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

図表2 投資部門別の累積売買状況



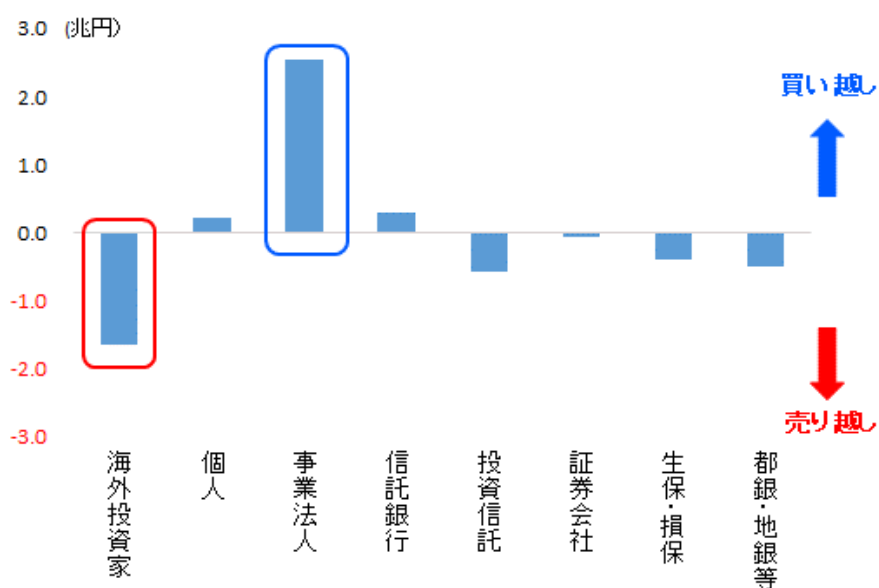
(注) 現物は東証・名証の二市場、先物は日経 225 先物、日経 225mini、TOPIX 先物、ミニ TOPIX 先物、JPX 日経 400 先物の合計
(資料)ニッセイ基礎研 DB から作成

2022 年 7 月（7 月 4 日～7 月 29 日）の主な投資部門別売買動向（現物と先物の合計）は、海外投資家が 1 兆 7,388 億円の買い越しと、最大の買い越し部門であった。特に 7 月第 1 週（4～8 日）に現物と先物合わせて 1 兆 1,905 億円、第 3 週（19～22 日）に 8,856 億円を買い越しており、株価の上昇に寄与した。ただし、買い越し額 1 兆 7,388 億円のうち、先物が 1 兆 5,688 億円、現物が 1,701 億円と、買い越し額のほとんどを先物が占めていた。日本株市場を評価した腰の据わった買いというより、裁定取引の短期的な買いが多かったと考えられる。

また、事業法人も 4,002 億円の買い越しだった。14 カ月連続の買い越しであり、買い越し額は 2022 年累計で約 2.5 兆円に達している。海外投資家は 7 月こそ大きく買い越したが、2022 年累計だと約 1.6 兆円売り越している。海外投資家の売りを事業法人の買い、つまり積極的な自社株買いによって相当な部分を吸収してきたと言える。

その一方で個人は、現物と先物の合計で 1 兆 2,830 億円の売り越しと 7 月最大の売り越し部門であった。特に 7 月第 1 週（4～8 日）は 4,852 億円の売り越し、第 3 週は（19～22 日）7,634 億円を売り越した。第 3 週に日経平均株価は 2 万 7,000 円台を回復しており、個人の利益確定売りが膨らんだ様子である。その他、7 月は投資信託も 7,056 億円の売り越しとなった。

図表3 年初来では海外投資家の売りを、事業法人の買いが支える



(注)2022年1月～7月の現物と先物の売買動向
 (資料)ニッセイ基礎研 DB から作成

以上

お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。